

# センターだより

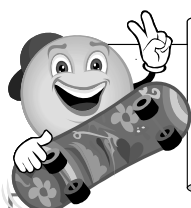
保存版

## 特別号 VI③(2010)

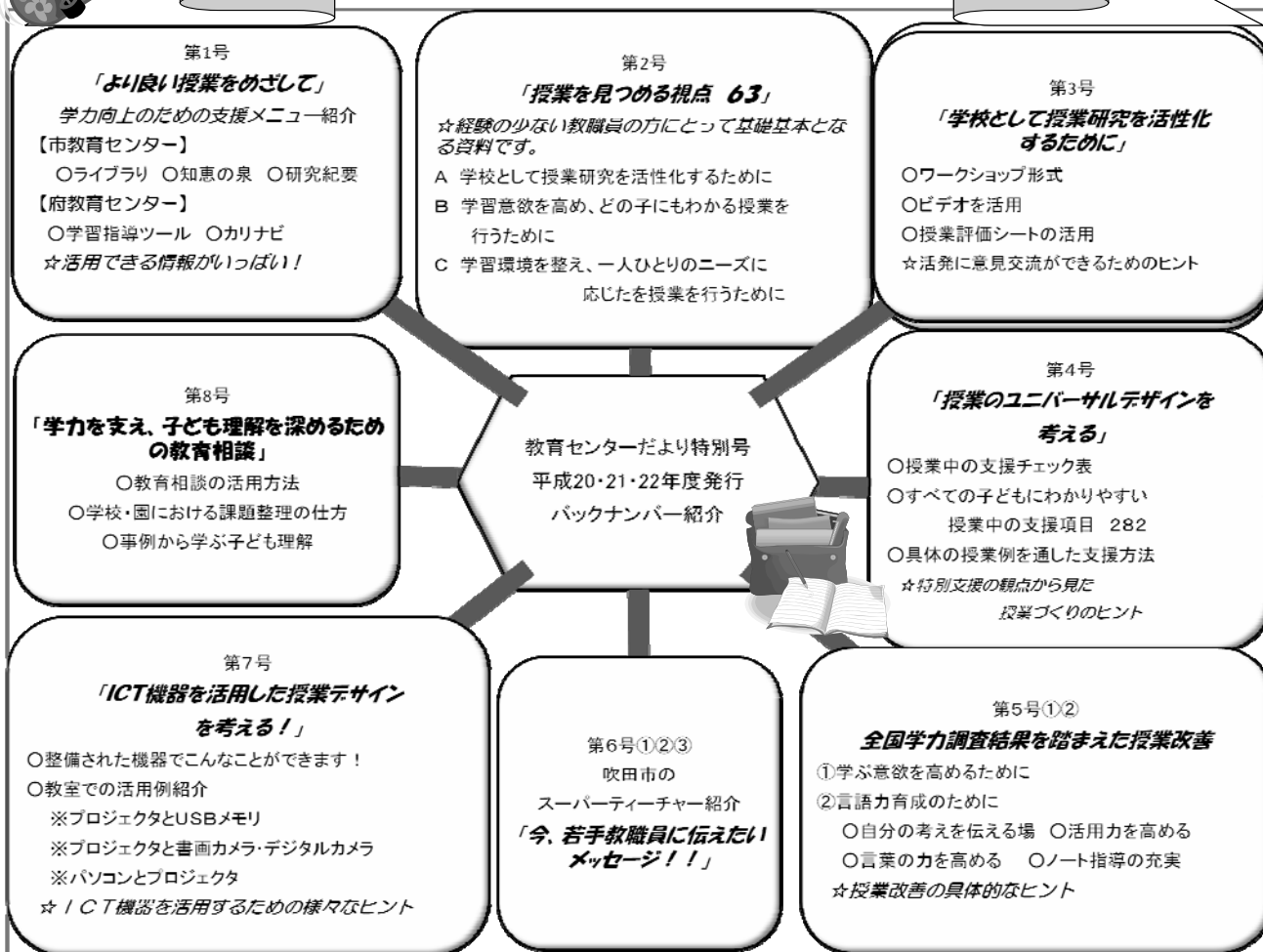
平成23(2011)年1月24日発行  
吹田市立教育センター  
大阪府吹田市出口町2-1  
TEL 06-6388-1455

### 『若手教職員に今、伝えたい！吹田のスーパーティーチャーズの実践・技』③

今年度2回目の吹田市のスーパーティーチャーズの指導教諭の先生方の実践紹介です。校内研修等でも、ご相談に乗っていただけます。依頼は直接所属校にお願いします。



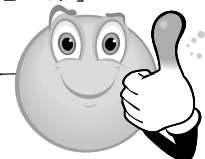
教育センターだより特別号(バックナンバー)  
各学校の学力向上に向けた校内研修に  
是非ご活用ください！ 出前研修もします！



これらのバックナンバーは、教育センターのホームページやSATUKIネットの「知恵の泉」からデータをダウンロードできます。

是非、校内研修や経験年数の少ない先生方の研修などでご活用ください。

学校からのご希望がありましたら、これらの内容を深めるための校内研修に教育センター指導主事等を派遣し、学校を支援させていただきます。



## 北山田小学校 石丸先生

こんな素敵な先生です！

大学での専攻を生かし、学研図工部で長年活躍されてきた石丸先生。「自分は不器用だから、じっくり腰をすえて、つきつめて取り組みたいんです。」謙遜しておっしゃっていました。(趣味のスキーも、長年続けておられるとか)

これまで、千里山・佐井寺図書館の壁画作成や、2008年11月の大阪府公立小・中学校美術研究大会・三島(吹田)大会における、万博お祭り広場での「太陽の塔」をテーマにした造形遊びの授業など、図工の大きな取組で中心となって活躍してこられました。

「図工部にはいろいろな分野のスペシャリストがいます。みんなで声をかけ合って、私は図工部の“接着剤”になればよいと思っています。」とも。

図工の授業について、「図工は、子どもが一番自分を表現できる教科です。授業では、その子にあった支援を心がけ、偶然の産物であっても、よいと思ったところは、口に出してほめるようにしています。子どものよさを見つけられるようにするためには、実技研修で実際に自分がやってみないとダメ。子どもを教えるにはパワーがいる教科ですが、その分、子どもたちに教師のがんばりが正直にあらわれる教科です。」と、おだやかな口調ながら、熱く語ってくださいました。そして「もっともっと勉強したいんです。」とおっしゃる姿勢には、本当に頭が下がる思いがしました。

### 若手教職員に、今、伝えたいメッセージ！

#### まずは、ためしてみよう

「描いたり作ったりするのが苦手だから、図工は教える自信がないなあ・・・」と思っている先生。まずは、子どもになったつもりでためしてみてください。身近な教科書の題材がいいと思います。読んだり聞いたりするだけでなく、実際に自分でやってみると、題材がもつ面白さや材料の性質、用具の使い方などがわかってきます。自分が困ったことから、指導するときのポイントも見えてきます。子どもの表現のおもしろさや、困っている子どもにも目が行き届き、個に応じた指導ができるようになります。**先生が楽しいと思うことは子どもも楽しい**のです。自分に合った題材から取り上げていくといいと思います。

お勧めしたいのが「造形遊び」や「鑑賞」の授業です。絵や工作に並び、学習指導要領で取り上げられているにもかかわらず、授業であまり実践されていないのが実情で残念です。

**独創的な発想がいい、その子らしい表現方法がいい**、などと評価できるのが図画工作です。自分の思いや考えを伸び伸びと表現することができるこの教科で、**一人ひとりの子どもがもっている個性をさらに伸ばして**あげてほしいと思います。

## 山田第二小学校 江端先生

こんな素敵な先生です！

江端先生が教職に就かれた頃は若い先生を育てようという気風が、先生方にも保護者の間にもあり、そういう中で自分は育ててもらい、本当に幸せだったそうです。

江端先生と通級のつながりは、当時の自分のクラスがしんどかった時、養護学級(当時)の児童が「先生、なんでガクッとしているの?」と言って背中をさすって励ましてくれ、この子の優しさをもっとみんなに伝えたいと思ったことから始まります。当時、ボランティアで運営されていた「ことばの教室」(通級指導教室の前身)を見学に行ったときに感じた「ピリピリしていない和やかな雰囲気」に目を見開かされ、ことばの教室に関わるようになってからも先生方の「眼差しのあたたかさ」

「職人技」「無から有を生み出す創造性」に教育の原点を感じたということです。そんなことばの教室のノウハウを毎日、放課後に優に100回以上は質問し、丁寧に教えてもらったことが、今の私につながっていますとおっしゃっていました。

医者は投薬や手術で患者を治すけれど、子どもは自分の力で試行錯誤しながら自らを治して(成長させて)いく。それが子どもと接しているうえでの大きな喜びであり、教師も試行錯誤しながら技術を生み出し、引き出しを増やしていくことが大事なのだと、若い先生方には伝えていきたいと話されていました。最後に江端先生からのお願い。名前下の「こんな素敵な先生です」は恥ずかしいので「誰でも素敵な先生になれます!」に変えてくださいとのことでした!

### 若手教職員に、今、伝えたいメッセージ！

人は集中して何分間話が聞けるとおもいますか?90分であると言われていました。では、担当している子どもならどうですか?もっと短くなりますね。でも学校は入学したときから集中して聞くことを要求されます。だから、**なぜ集中して話が聞けないのかではなくて、聞けなくても当たり前**と考えたらどうでしょう。実際、集中して聞くには子どもに聞くことを受け入れるための準備がいります。準備がまだのときは、準備が整うまで支える手伝いをします。指導にその視点があれば子どもにとって「負担が少ない」授業になり、参加しやすくなると思われま。どれくらいの期間、どこまで支えるかは子どもや保護者と相談したり、方法を試したりするなかで見つかる場合が多いです。支えが個に合うと子どもの表情に変化が出てきます。

**子どもは支えてくれる大人と出会うと、大人を信頼してくれるようになります。**

先輩の支え上手な指導の場面を見つけ、今後の指導に役立てて下さい。

## 吹田第三小学校 辻本先生

こんな素敵な先生です！

「学級担任をしていたころは、子どもたちの力を伸ばすことに必死で『がんばれば誰でもできる！』と子どもたちにエールを送り続けていました。通級教室を担当して初めて『がんばってもついて来れない子どもたちがいる』ことに気づきました。」と語られる辻本先生。通級教室を担当したことで、今まで見えなかったいろいろなことが見えてきたそうです。問題を子どもの側におくのではなく、もっと子どもの目線・子どもの気持ちになって考えてみたいと思われたことが、特別支援教育に関わられるようになったきっかけだそうです。

他の子どもたちより、自分の不得手な部分を大きく持っている通級教室に通う子どもたちですが、それぞれに良さを持っています。その子の秀でたところを、保護者の方々と一緒に探ando探andoすること。そして、将来そのよさを生かして進んでいく姿を見ることができた時、大きな喜びを感じられるそうです。

今、吹三小で担任の先生たちとのコラボレーションにより実施されている「読み書きトレーニング」では、特殊音節につまずきのある2年生の抽出児に対して、毎週1回昼休みに教室を開いておられます。毎時間ごとに指導案を作り実施し、参加した子どもたちの様子を記録してまたその後のプログラムを見直すなど丁寧な取組を続けておられます。

「子どもたちの誤り分析から手立てを考えることが面白い」と語られる辻本先生の言葉から、子どもたちへの熱い想いと幅広く温かい心を感じました。

### 若手教職員に、今伝えたいメッセージ！

うまく思いを伝えられず、つい手が出てしまう子、友達や担任の先生に挑発するような言葉を投げつけてしまう子…。通級指導教室を担当して様々な子ども達と出会いました。対応の難しい子どもも多く、今でも戸惑うことも多々ありますが、そんな時は、「**あなたは どうしたかったの？**」と聞いてみます。

**子どものすること、話すことには必ず理由がある**からです。理由を聞いてその背景を考えることが支援の手だてを見つけるための第一歩だと思います。

もし先生のクラスで困った行動をしてしまう子がいたら、その子もつらい思いをしているのだということを知ってあげてください。そして話を聞いてあげてください。それでもいい手だてが見つからない時は、迷わず先輩の先生方に相談してください。

私もこれまで多くの先生方のアドバイスに助けられました。一人で悩まずにぜひ職員室で先輩の先生方と子ども達の話をして、アドバイスをいっぱいもらいましょう。

## 千里丘中学校 平岡先生

こんな素敵な先生です！

学校で一番声が大きく元気な平岡先生。その元氣

いっぱいの秘密は、常に子どもと活動しながら、「自分も一緒に」楽しむことだそうです。国語の教員になられたきっかけは、「様々な学びの子どもが各々のレベルでとつきやすい教科なので、他の教科で下を向いている子どもも授業のどこかで授業に引き込むことができるのではないか」と思われたことだそうです。授業では、子どもたち自身がいっぱい話すこと・そして聞くことを大切にされています。

千里丘中学校は、幼・小・中・高校が隣接しているという立地条件を生かし、幼～高校までの連携に取り組んでおられますが、その中で、平岡先生は総合の学習や国語科を通して、幼稚園での中学生による紙芝居や高校生の俳句句会ライブに中学生チームとして参加するなど様々な取組を進められています。これらそれぞれの取組が、子どもたちの「やればできる」「やってよかった」という自信につながっているそうです。

お話を伺っていると、「一人ひとりの子どもを大切に、その可能性をのばしたい」という平岡先生の熱い思いが伝わってきました。

### 若手教職員に、今伝えたいメッセージ！

私が最初に担任したクラスは、全然うまくいかなかった印象が強いです。うまくいってないことが自分にいちばんよくわかるし、何とかしようと思えば必死になるあまり、よけいにぶつかり傷つけあい、生徒といい関係が作れない苦しい失敗ばかりでした。

実は思い出さなくても恥ずかしい日々なのですが、この日々があって今の自分があるのだとも思います。思い起こせば、苦しくなれば苦しくなるほど独り相撲を取りがちでした。でも、そんな日々にも一緒に方向を見つけている生徒はいるし、周りの先生方の支えや励ましがあってなんとか前へ進んでいくことができました。

若い先生方には、**周りの人の声に耳を傾ける余裕と謙虚さ、失敗を恐れずチャレンジする意欲**を持ちつつけてほしい。

生徒がどう思っているかは生徒から聞けばいい。職員室で周りにいるのは教えるプロばかりなのだから、どんな質問したらいい。そして、**自分のやれそうなことから取り入れて、自分のやり方でやってみよう。**

最初のクラスでいちばん私を困らせた生徒から、「ごめん」一言だけのはがきが卒業後に届きました。この仕事は落ち込むこともたくさんあるけれど、たった一言で舞い上がるほどの喜びを感じることもあります。そんな醍醐味をぜひ味わってください。

## 山田東中学校 吉田先生

こんな素敵な先生です！

吉田先生は、実は小さい頃は、絵を描くことが得意で、中学生の頃は美術の先生になりたかったそうです。その後、高校生の時、たまたま、船の二等客室でたくさんの外国の人と乗り合わせる場面があったそうですが、そのとき「where are you going?」の一言しか話せない自分自身に悔しさを感じたことが、英語を学びたいと考えた始まりだそうです。そして、その後英語に関する仕事をしたいと考えることにつながったそうです。

2002年から3年間、シンガポール日本人学校で経験をされたそうですが、そこでは、現地の子どもたちの語学力やITなどの教育環境のレベルの高さに驚かれたそうです。帰国後、海外日本人学校での勤務経験を生かし、子どもたちに世界のいろいろな国・都市・文化について知ってほしいと考えながら国際理解教育に関する取組をされています。その一つとして授業中の発表を記録するスタンプカードの取組があります。世界の都市・世界遺産など画像も含めて記入した世界地図の入ったスタンプカードを作り、子どもたちが自然と世界の国々の文化等について学べるような工夫をされているそうです。そのことは、同時に授業中に子どもたちが発表する機会を大切にすることとつながり効果を上げているそうです。

### 若手教職員に、今伝えたいメッセージ！

私が教師になってからもうすぐ19年の月日が流れます。この間、本当にいろいろなことがありました。数年で教師集団がかわるので、どの年もそれぞれに思い出に残るものでした。

でも、この19年間で1番印象深かったのは、やっぱり1年目です。本当に10年分くらいその学年にいた気がしました。その中でも特に印象に残っていることは、毎日仕事や仕事以外の種々の話をしている先生方がたくさんいたことです。当時新任だった私にもいろいろ話をしてくださいました。そのおかげで、私は最初の1年間で、かなり教師という仕事に関する情報を手にすることができました。

ところで、**宮大工の仕事に口伝というのがあります。**「木は生育の方位のままに使え」とか「堂塔建立の用材は木を買わず山を買え」とか、**師から弟子に直接口頭で投げ伝えること**です。こういう記録には残らない先達者からの言い伝えが仕事に対する姿勢を養いその仕事を永遠に支えているのだと思います。

どこの学校にもこういう先達者からの言い伝えというのがたくさんあります。確かに聞いただけでは納得できないこともありますが、それをやってみて初めて「ああ、なるほど。」と思えることも確かにありました。**今、教師の仕事に欠けていることと言えば、この口伝ならぬ言い伝えではないか**と思います。

もう一つ皆様にお勧めしておきたいことがあります。**それは毎日日記を書くこと**です。私は教師になる前、友だちに勧められて書き始めました。筆無精の私に本当にできるのか疑問でしたが、おかげさまで何とか十数年分の日記を書き上げることができそうです。どんな高価な品物よりも自分で感じたこと反省したことを書き留めたものが、この十数年間の1番の宝物になると確信しています。

## 青山台小学校 杉田先生

こんな素敵な先生です！

杉田先生の問題解決学習の算数授業を見たことがあるでしょうか。6年生の授業では、今日の課題である問題文を書く杉田先生の手元を、みんなが黙って、食い入るように見つめています。4年生の授業では、自分の考えたやり方で課題を解決しようとするいろいろな方法でチャレンジし、必要ならプリントの図形をハサミで切り取ってしまいます。5年生の授業では、ある子どももの説明に、他の子どもが「わからない、どうして?」「こういう場合はどうなるの?」と質問を投げかけます。共通しているのは、みんな真剣に自分で課題に取り組んでいること、自分の考えを友だちに伝えようとしていること、他の子の考えを認める雰囲気がある、ということ…。いいなあ、と思う子どものよい姿をたくさん見ることができます。

杉田先生と問題解決学習の出会いは、吹二小で「子どもたちに問題文を読み取る力をつけたい」と努力目標委員としてこの課題に取り組んだときでした。問題解決学習という方法に手応えを感じ始めたのは、実践しているうちに子どもが変わってきたからです。「子どもが人の話を聞くようになり、あきらめずに問題に取り組むようになった」そうです。それ以降、学校が変わっても、算数だけでなく他の教科でも問題解決の手法を取り入れて授業に取り組んでこられました。「学校の子は自分の子。算数だけしたらいいのではなく、わからないことを聞けるクラスづくり、仲間づくりを算数を通してやっている」という杉田先生。授業に対する熱意ももちろんですが、お話をきいていて、子どもの力を信じている姿勢を強く感じました。

### 若手教職員に、今、伝えたいメッセージ！

研究授業の時、「この先生はどんなクラスをめざしているのかな?どんな子どもに育てようとしているのかな?」と疑問に思うことがあります。

子どもは日々変化するし指導案どおりに進まないこともあります。しかし、指導(授業)者がどんなクラスをめざしているのかは、一貫しているべきだと思うのです。

私は、問題解決する方法や答えを教えることだけが授業だとは思いません。一人で考えられる力、考えたことや見つけたことを友だちに伝える力をつけさせたい。また、うまく伝えられない子や間違えてしまった子への優しさや見守るあたたかさを身につけて、そういう雰囲気の中で子どもたちがつながってほしい。そのためには、**ひとひひとひの表情の変化を見逃さず子どもを理解し、子どもどうしが共通理解できるようにマネージメントすることや、ときには黙って待つこと**も必要です。

子どもたちと休み時間に遊ぶことや行事で達成感を味わわせることも大切ですが、**やっぱり私たち教員は授業が勝負**です。なにより教員が楽しんで授業できることが一番です。私も、そんな授業を目指して日々工夫し続けていきたいと思っています。

是非若い先生方は、よい授業をたくさん見て授業力をつけてください。